

漁況予報 いわし

第104号

2001年 3～4 月漁期
(2001年3月9日発行)

＝ 概況 ＝

まいわし

前漁期のマイワシ漁獲量は、ほぼ予測どおりとなりました。1月は、散発的ながら相模湾東部の定置網を中心に小羽イワシ主体の入網がありました。2月に入り中旬に相模湾東部の定置網のうち諸磯～大楠地区にかけて5トン/統/日前後の中羽イワシ(2000年級群)主体(大羽イワシ2～3割混じり)の入網がありました。この中羽イワシは、房総沖及び相模湾近傍で越冬している未成年魚群の一部が来遊したものとされます。一方、湘南～西湘地区では極めて散発的な漁模様で終始しました。また、佐島地区のまき網は下旬になり、中羽イワシを主体に漁獲し、一部は餌イワシとして生簀で蓄養しています。大羽イワシは中羽イワシに混じる程度でしたが、単価は1,000円/kg前後しました。

これら中羽イワシのなかには、既に成熟している個体も多いことから、今漁期以降、大羽イワシと共に産卵に加わるべく順次沖合へ離散すると考えられるため、今漁期は前漁期ほどの漁獲は見込めないでしょう。

かたくちいわし

主要定置網におけるカタクチイワシ漁は、1トン/統/月を越えた定置網が1ヶ統もなく、1・2月とも昨年同期を若干上回ったものの低調に推移しました。

一方、佐島地区のまき網は、昨年同期は漁獲0でしたが、2ヶ月で約15トンの漁獲があり、カツオ用餌イワシとして生簀で蓄養しています。

今漁期後半以降、沖合からの大型成魚の来遊が主体となりますが、資源水準が過去2年と比べて低いと見られていますので、大きく漁獲量が伸びることは期待できないでしょう。

しらす

1、2月はしらすの禁漁期間中ですが、当所では佐島から平塚地区にかけて特別採捕許可による試験操業を実施しました。どのポイントでも越冬カタクチシラス(全長30～45mm)が主体ではありましたが、全般的に昨年の調査と比べ、マシラスの混獲割合が高いという特徴がありました。これらは、昨年秋に西方海域で生まれ黒潮により相模湾に来遊したものと思われませんが、既に全長30mm前後の大シラスが主体でしたので、解禁後のマシラスに直接はつながらないでしょう。

解禁直前の3月の調査では、昨年と大きく違い、全域でしらすの反応が殆ど無い状況でした。マシラスやウルメシラスでは全長20mm未満の個体が半分以上を占めるポイントもありましたが、カタクチシラスでは相変わらず越冬シラスが主体で小シラスは僅かに見られる程度でした。このことから、今年の春漁期のスタートは昨年のような豊漁とは行かない模様です。

＝ 予報 ＝

まいわし

今漁期は、1～2月に漁獲された中羽イワシ(2000年級群)が引き続き主体となり、大羽イワシは中羽イワシに混じる程度でしょう。魚群は産卵のため沖合に離散しますので、索餌北上群の来遊は次漁期になります。

今漁期の漁獲量は、約30トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

かたくちいわし

今漁期は、前半は小型成魚が、後半は大型成魚が漁獲の主体となります。

全般的にカタクチイワシ資源は、ここ数年減少傾向にありますので、漁況が大幅に好転することはないでしょう。

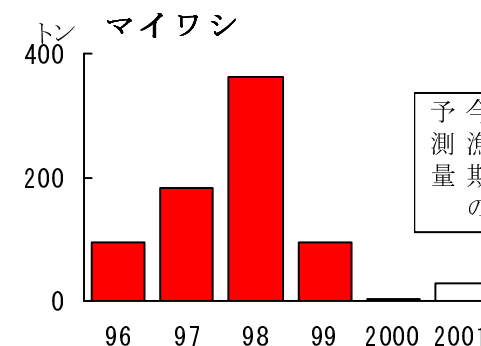
今漁期の漁獲量は、約260トンと予測されます。

しらす

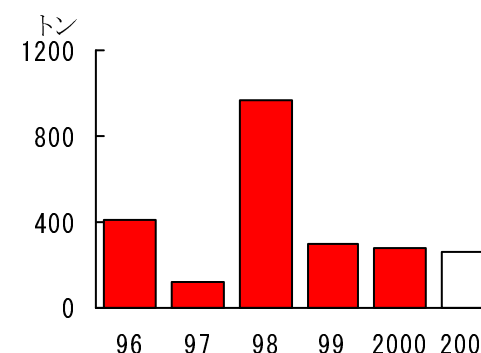
今漁期は、春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となりますが、試験操業の結果及び大型成魚の資源量が昨年と比べ低いことから、本格的な春漁期入りは今漁期後半になるでしょう。3月中はマシラスも昨年ほど多くはないものの混獲され、ウルメシラスは漁期を通じて若干混じる程度でしょう。

今漁期の漁獲量は、約160トンと予測されます。

過去5年の3・4月漁期の漁獲量と今漁期の予測量



カタクチイワシ



シラス

